

令和7年度練馬区立開進第一小学校 学校評価報告書

練馬区立開進第一小学校
校長 海老沼 寛之

1 自己評価結果

(1) 概要

今年度は昨年度との経年比較を見るため項目を変更せずに評価アンケートを実施した。また、昨年度同様、より保護者や高学年児童の意見を取り入れるため、シグフィやフォームなどを活用したオンラインによる自由記述欄を設けた。児童については、各評価項目において「思う」「少し思う」を選んだ平均値が81.3%で、概ね肯定的な回答となったが昨年と比較すると2.6%Pt減となった。保護者については平均値が80%で、昨年度より6%Pt増となった。

児童、保護者共に数値が高かったのは「学校は楽しいですか」（児童91%、保護者・地域94%）、「授業はよくわかりますか」（児童95%、保護者・地域90%）、「学校行事は楽しいですか」（児童92%、保護者・地域97%）で、昨年度よりも更に外部との連携を強化した教育活動を多く展開し、ホームページ等により学校情報を詳細に伝えたことが要因と考えられる。逆に保護者の平均数値を大きく落とす要因ともなったのが「自分からすすんで読書をしていますか」（児童70%、保護者・地域50%）で、昨年度に引き続きどの項目よりも肯定的割合が低くなっている。校庭の使用が工事により制限されることを逆手に取った図書室の利用機会の増大などを契機に、授業時の読書に対する取り組みの見直し、図書委員会の活動・企画の充実、電子図書館の活用などを図りながら、肯定的評価の向上を目指す。

(2) 根拠となる資料

別紙参照（学校だより2月号）

2 学校関係者評価

(1) 総括

○児童と保護者・地域の皆様とで関連を見る質問

| 上段：児童への質問 下段：保護者への質問 | 児童の肯定的な 回答の割合 | 保護者・地域の 皆様の肯定的な 回答の割合 |
|-------------------------------------------------------|------------------|-----------------------------|
| 1 学校は楽しいですか (お子さんは楽しく学校に通っていますか) | 91%(+1) | 94%(+1) |
| 2 授業はよくわかりますか (学校は学力や学ぶ意欲を高める授業をしていますか) | 95%(+1) | 90%(-3) |
| 3 自分からすすんで読書をしていますか (お子さんは自分からすすんで読書をしていますか) | 70%(-2) | 50%(-3) |
| 4 あいさつはすすんでできますか (お子さんは自分からすすんであいさつができますか) | 86%(-3) | 75%(±0) |
| 5 自分のことは好きですか (お子さんは自己肯定感が高いですか) | 74%(-6) | 72%(-2) |
| 6 学校行事は楽しいですか (授業以外(行事等)で子供たちの頑張りが見えますか) | 92%(±0) | 97%(-1) |
| 7 家庭学習の時間 学年×10分やっていますか (お子さんは家庭学習を学年×10分やっていますか) | 72%(-4) | 72%(-2) |
| 8 運動や遊びなどで体をよく動かしていますか (お子さんは運動や遊びなどで体をよく動かしていますか) | 84%(-4) | 74%(-1) |

1の考察

「明日も学校に行きたい。」と毎日子供たちが思っている、登校できることが何よりです。数値としては高いのですが、否定的な回答をしている子供、保護者が1割程度いることを肝に銘じます。子供たち一人一人に寄り添い、学校が楽しくないと感じている理由を様々な手段や立場で把握し、改善を図っていきます。

2の考察

子供たちが学校にいる時間の多くが「授業」の時間です。その授業がよく分かるということは、子供たちが学校に来るモチベーション向上にもつながります。高い数値を維持しているため、今後も教員一同、教材研究を丁寧に行い、子供たちの主体性を育み、分かる・できる授業づくりを目指していきます。

3の考察

読書に対する取組は、夏休みの図書室読書機会、秋の読書旬間等で行っています。PTAサークルマザーグースの皆様のお読み聞かせも本当にありがたい限りです。子供たちと保護者等、低学年(1～3年生)と高学年(4～6年生)とでも大きく数値が離れています。特に高学年になるにつれて、学校でも図書の時間が減るうえに、家庭では読んでいないという子供が多くなる傾向にあるようです。読書をする時間の確保、読書の意義の理解等、学校として読書に対する取組を見直し、改善を図っていただけるように努力します。

4の考察

毎朝、廊下などですれ違う際に多くの子供たちが挨拶をしています。代表委員会の児童が毎週水曜日にあいさつ運動してくれているのも、確実によい効果となっています。しかし、保護者等から見て、「すすんで挨拶」という視点ではもっと頑張してほしいということだと考えられます。挨拶は人と人とのコミュニケーションの基本であり、挨拶をし、返しがあるととても気持ちよく過ごすことができます。粘り強く・継続して学校でも挨拶を活発にしていきます。

5の考察

自己肯定感を見る質問です。子供たち、保護者共に3割近くの方が否定的に捉えていることを肝に銘じます。そのためには、周りの大人、友達からの称賛が何より大切です。学校では、全校朝会等で特技を披露してもらったり、表彰をしたりしています。また、異学年や異校種の方々との交流、特別活動の充実等も図っています。一人一人に必ずよいところ、得意なところは必ずあります。ぜひ、御家庭でも、お子さんのよさをたくさん褒めていただき、「自分を好きになる子」が一人でも多くなるよう御協力をお願いします。

6の考察

今年度は、開一まつり・運動会・いちよう音楽会等の全校での学校行事がありました。その他にも移動教室や社会科見学など各学年での行事もありました。行事は普段の授業とはまたひと味違う体験ができ、子供たちを成長させるよいきっかけになります。来年度も真に子供たちのためになる学校行事を企画・立案し、実施していきます。そして、子供たち自身がつくり上げていく部分も大いに入れて、「よりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を養う」という学校行事の目標達成にもより近付けていきます。

7の考察

家庭でも学習をする習慣を身に付けることが大切です。そのための一般的な目安が小学校は、学年×10分と言われています。復習・予習・読書・自主学習等内容は様々考えられますが、「やらされている」から「自分からやる」という姿勢に導いていく必要があります。家庭学習の習慣を身に付けるための働きかけの方法について、近隣の小中学校とも連携しながら教職員で協議し、より積極的な働きかけをしていきます。

8の考察

5月に行った「新体力テスト」の結果を見ると、5・6年男子、1・2・5年女子以外は、テストの合計値が東京都の平均を超えました。学校では遊びの時間、体育の授業、もりもりウィーク等で意図的に運動する時間を確保してきました。保護者等と子供たちとで肯定的評価に開きがあるのは、家庭での過ごし方が影響しているものと思われます。運動は健康な身体づくりはもとより、仲間とのコミュニケーションも図れます。向こう2年間、長寿命化工事により運動時間の確保に苦慮するところではありますが、学校以外も含めた「運動の日常化」を図れるよう、教職員で協議を重ねます。

○児童単独の質問

| 質問 | 肯定的な回答の割合 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1 学習用タブレット端末を活用していますか | 82%(-3) |
| 2 自分はみんなのために役に立っていますか | 71%(-4) |
| 1の考察 学習用タブレット端末は、今の6年生が2年生になったときから導入されました。5年生以下は、入学したときから、タブレット端末が当たり前にある学校生活です。ただし使用と活用とは別物ですし、学習形態・内容によって効果的に活用できることが大事です。これからの情報社会、このようなタブレット端末を使いこなしていく能力が更に求められます。また受け手としてではなく、発信する側の責任についても自覚する必要があります。2月より順次 dongle 不要の新型端末になり、利便性が向上します。タブレット端末を文房具の一つとして活用できるよう、今後も授業の中でも積極的に取り入れていきます。 | |
| 2の考察 自己肯定感に加えてもう一つ子供たちに高めてほしいのが「自己有用感」です。低学年は8割以上が肯定的に捉えています。高学年は4割が否定的に捉えていて数値に大きな差があります。学級、学年、あるいは学校全体の中で自分が他者から認められ、集団の中で役に立っているという思いをもつことができれば、更に学校生活が充実し自信をもてます。学級での活動、学校行事等で、一人一人が活躍できる場面を多く設定することで、自己有用感を高める機会を増やしたいと考えます。また異学年交流や地域とのかかわりなどを設け、「自分はみんなのために役立っている」と一人一人が思えるようにしていきたいと思えます。 | |

○保護者・地域の皆様の単独の質問

| 質問 | 肯定的な回答の割合 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 1 お子さんが安心して生活を送ることのできる学校ですか | 91%(-2) |
| 2 学校の情報・状況はよく伝わっていますか | 85%(+3) |
| 1の考察 毎日、保護者の皆様が送り出してくださり、日中の多くの時間、学校で生活している子供たち。そこが安心して生活できる場所であればなりません。肯定的な回答が9割を超えていますが、これからのいじめ・差別・からかい等がなく、安心して生活ができる学校づくり、そして緊急時（地震・火災・不審者侵入等）にも落ち着いて行動できるような定期的かつ実践的な避難訓練の実施、工事等で目まぐるしく状況は変わりますが、全教職員で校舎内外の環境面の安全点検を繰り返すこと等、抜かりなく行っています。 | |
| 2の考察 学校・保護者・地域の皆様とが協力して子供たちを見守り、支えていくことで子供たちのよりよい成長が望めます。そのためにも、学校の情報・状況をオープンにして、保護者・地域の皆様に知っていただきたいと考えています。15%の方々が否定的に捉えていることを真摯に受け止めます。学校のホームページの定期的な更新に加えて、sigfy でのタイムリーな情報発信、授業公開や学校行事等を行い、直に子供たちの様子や教職員、学校全体を見ていただくことを継続していきます。また、PTAを通じた安全安心ボランティアのお願い、授業への参加（ゲストティーチャーや学習ボランティア等）も積極的にお願いしていきます。 | |

3 評価結果の公表等

学校だより2月号に学校評価の結果を掲載し、学校ホームページ及びシグフィにて保護者や地域の方に公表した。

4 次年度の学校改善に向けた校（園）長の見解

子供と向き合う時間の創出をねらい、都・区教育委員会が既に諸方針を示している。昨今、様々な業界で人材不足が懸念されている。教育界も例外でなく、本校でも、年度途中で定数が充足できなかった。来年度当初も同様の懸念がある。持続可能な教育のために、示された諸方針等の理解を地域、保護者に促す。

令和8年度も一層の重点化・精選化に取り組み、子供と担任・専科教員との奥深いふれあいによる日常的な教育の充実に努めていく。以下、新たに下記の取組を進める。

① 水泳指導期間の集中化及び夏休み後半の図書機会の設定

昨年度に引き続き水泳指導を、総指導回数は維持したまま、1学期の間に集中して行うこととする。これにより、指導の重点化を図るとともに、プール管理負担を減じる。6月上旬より水泳指導を始め、7月末までに終える。

なお、今年度に引き続き、夏休み後半に登校慣れを兼ねた図書室読書機会を各学年一日設定する。家庭学習虎の巻に位置付けている読書は学力向上の決め手である。2学期準備と読書励行に活用させる。

② 文化的行事の時期の分散開催

2学期に集中して行っていた行事の実施日を分散させる。

- ・運動会 10月17日(土) 振替休業日は10月19日(月)
- ・展覧会保護者鑑賞日 2月13日(土) 振替休業日は2月15日(月)

③ 第二土曜授業参観の新構築

第二土曜授業回数は4日になる。この4日については各学期1日以上計4日を授業参観に充てる。

○土曜参観 一学期5月16日、二学期9月12日、11月14日、三学期2月13日(すべて振替休業日なし。)

④ 朝の居場所事業の開始

共働き家庭の増加に伴い、保護者の通勤時間に合わせて開門時間より早く登校する子供が増加しており、安全確保が課題となっている。子供たちが始業前に安心して過ごせる居場所を校内に設置する「小学生の朝の居場所事業」を区内のモデル校として図書室で実施する。児童の見守りはシルバー人材センターの派遣職員が行い、教職員と保護者の負担を軽減する。

⑤ 校舎長寿命化工事への着手

一定の老朽化がある本校校舎にいわゆる“新築そっくりさん”工事を施して、現躯体を活用して、新たな施設環境を作る。現在は仮設校舎を新築し、改装は令和8・9年度の2か年。全面改築に比すると、負担は低減されるが、仮設校舎での生活や校庭が使用できない期間の過ごし方について、既成概念に捉われないことなく、子供たちにとって快適と感じられる改善策を模索していく。